

柳沢文庫では、令和6年（2024）が柳澤吉里（やなぎさわよしさと）の郡山入城300年の節目となるのを前に、吉里に関連する史料収集を進めています。その一環として、本年3月に、山梨県に出張し、乾徳山恵林寺および信玄公宝物館（山梨県甲州市塩山）にて、史料調査を実施しました。柳澤家は、江戸時代の中頃の宝永2年（1705）から享保9年（1724）まで、19年間にわたり、甲斐国（山梨県）の領主をつとめました。そのため、現地には柳澤家に関連する史料や史跡が多数残されています。

なかでも戦国大名武田信玄の菩提寺として知られる恵林寺は、柳澤家とも深い関係を結びました。初代吉保・定子夫妻の墓所が設けられ、あわせて柳澤家から奉納された武具・什物類も多数伝来します。今回は、とくに吉里の絵画や学芸（学問・芸能）に関する調査を行いました。成果については、今後の展示などで皆さんにもご覧いただきたいと考えていますので、ご期待ください。

なお、調査にあたっては、恵林寺のご住職古川周賢様、信玄公宝物館の館長小野正文様およびスタッフ各位、さらに柳沢文庫収蔵史料研究会（学芸）委員各位にお世話になりました。記して感謝を申し上げます。



柳沢文庫学芸員紹介



7月18日付で着任いたしました、成富なつみと申します。
前職は長崎県の離島である対馬市で対馬博物館の新設事業に取り組んでいました。着工から携わっていたこともあります。展示や収蔵といった学芸員の仕事としてイメージしやすい業務のほかに、文化財にとって有害なガスである有機酸やアンモニアなどの汚染物質測定をはじめとする環境管理の業務も担当しました。

専門は近世文学ですが、前職では近世史の担当として、主に対馬藩の藩主である宗家が遺した宗家文書を展示していました。

この度、初めて九州を離れ、柳澤家、および、郡山藩についてはこれから学んでいくところではございますが、前職の経験を活かして精力的に取り組んでいきたい所存です。不慣れなためにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和5年度（2023年度）企画展1のご案内

「館蔵品選① 柳沢文庫にみる柳澤家の源流」

会期：令和5年8月5日（土）～9月10日（日）

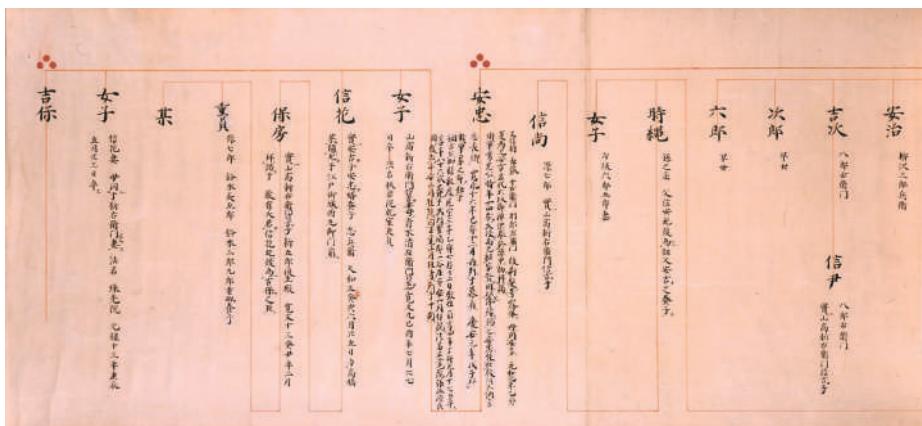
休館日：毎週月曜日、第4火曜日

夏期休館：8月13日（日）～8月18日（金）

柳沢文庫は、旧大名家である柳澤家に伝來した古文書、古典籍、絵画を中心とする近世史資料を研究、公開するための文書史料館及び地方史誌専門図書館として活動しています。柳澤家は、享保9年（1724）に2代目吉里（1687-1745）が甲斐（現山梨県）からの転封を命じられ、郡山城主となって以降、代々郡山藩を治めました。

来年は吉里の郡山入城300年という柳澤家、および、郡山城にとって節目の年にあたります。そこで、令和5年度企画展1では、柳澤家に伝來した資料を概観し、柳澤家の歴史を学ぶ契機とします。

柳澤家初代の柳澤吉保は、5代將軍徳川綱吉の側用人をつとめ、綱吉からの絶大な信頼を得て甲斐一円を支配する国持大名にまで出世しました。吉保は自身のルーツに誇りを持ち、その系譜の考証、整理に努めました。この吉保の命で編纂された系図が「清和源氏武田流甲斐国主系図」です。清和天皇を祖とする清和源氏のうち、源義光の子孫が甲斐に土着して甲斐源氏と呼ばれるようになりました。その嫡流は武田姓を称し、甲斐源氏の惣領として勢力を拡大します。本系図によれば、柳澤家は青木家、一条家を通じて武田家に連なるとされ、武田の末裔として「甲斐国主」に任じられた吉保の正当性を表明したものといえます。



「清和源氏武田流甲斐国主系図」

側用人として仕える吉保の日頃の奉公に報いるため、綱吉は宝永2年（1705）4月29日、吉保に先祖の領地である山梨、八代、巨摩の三郡の支配を任せました。さらに翌年には幕府領であった都留郡を預け、柳澤家が甲斐一国を支配する体制が整いました。江戸時代に入ってから甲斐を一円的に支配した大名は存在せず、吉保の甲斐拝領は武田信玄・勝頼以来、約120年ぶりに甲斐国主が誕生する極めて異例な出来事でした。

これほどの信頼関係を築いていた綱吉と吉保は主従という関係のほかに、学問における師弟関係も結んでいました。天和元年（1681）に吉保は綱吉の学問の一番弟子となります。この時、綱吉が示した学問の指標が「過則勿憚改（過てば則ち改むるに憚ること勿かれ）」です。貞享5年（1688）6月3日、吉保は改めて綱吉が書に認めたこの指標を拝領しています。



「過則勿憚改」 德川綱吉筆



「保山公御詠歌御手鑑」 柳澤吉保筆

吉保が多くの学者を召し抱えたことから、柳澤家では好学の気運が醸成されました。柳澤文庫には歴代当主の作品が多数伝来しています。今回の展示では、初代吉保の自詠自筆77首を含む「保山公御詠歌御手鑑」と2代吉里の自詠自筆を含む「郡山八景和歌」を出品します。

★お知らせ★

企画展関連講演柳沢文庫歴史塾(郡山学)

時 間 14:00~15:30 会 場 DMGMORIやまと郡山城ホール 定 員 90名
参加費 200円 (柳沢文庫友の会会員の方は無料)



◆第2回9月9日 (土)

「柳沢吉保と元禄時代の政治 一江戸城「奥」と側用人の役割一」※申込締切8月23日(水)
講 師 深井 雅海 氏 (徳川林政史研究所所長)

◆第3回10月21日 (土)

内 容: 武田信玄公および柳澤吉保・定子夫妻が眠る恵林寺(山梨県甲州市)についてご講演いただきます。※申込期間: 9月20日(水)~10月3日(火)

講 師 小野 正文 氏 (信玄公宝物館館長)

※事前申込制。詳細は柳沢文庫ホームページをご覧下さい。

柳沢文庫販売物



柳沢文庫オリジナル
一筆箋 400円
ミニ一筆箋 300円

『柳沢文庫収蔵品図録』 2,000円 (1,800円)
特別展「筒井順慶」図録 1,000円 (900円)
『郡山城絵図集－江戸時代の郡山城を読みとく－』
2,500円 (2,250円)
「柳澤家伝来の名品」展 図録 500円 (450円)
『柳沢文庫収蔵品目録 軍令』 1,500円
『柳沢文庫収蔵品目録 軸棚』 1,800円
『柳澤藩家老「敷田家文書」の目録と解題』 3,500円
『柳澤吉保の一面』 400円 (320円)
柳沢史料集成
第5巻 4,000円 (3,200円)
第6巻～第7巻 5,000円 (4,000円)
第8巻～第10巻 7,000円 (5,600円)

『大和郡山城天守台石垣岩石種調査報告書』 700円 (560円)
『大和郡山藩主松平(柳澤)甲斐守保光
－茶の湯と和歌を愛した文人大名 堯山』 700円 (560円)
『史料纂集 楽只堂年録』
第1巻～第3巻 13,000円 (10,400円)
第4巻～第8巻 14,000円 (11,200円)
第9巻 15,000円 (12,000円)
『江戸に生きて－正親町町子の半生－』 1,000円
絵図セット (和州郡山藩家中図・享保家中図・大和郡山城)
500円 (400円)
ポスター 郡山城絵図の世界 第二版 500円 (400円)
御殿だるまシール 100円
クリアファイル
・和州郡山藩家中図、柳澤信鴻筆牡丹錦鶴図、徳川綱吉筆
過則勿憚改 各350円／3枚セット1,000円
・郡山城極楽橋モノクロ 200円／カラー 350円
・山下繁雄筆 郡山城址初秋 350円
絵はがき「城跡景観」8枚セット 500円 (400円)
御城印300円 ※柳沢文庫受付のみにて販売



*柳沢文庫では、友の会会員を募集しています。 年会費一般1,500円／学生750円

公益財団法人郡山城史跡・柳沢文庫保存会 〒639-1011 奈良県大和郡山市城内町2-18 Tel 0743-58-2171
<http://www.mahoroba.ne.jp/~yngbunko> <https://www.facebook.com/yanagisawabunko>